

第48回卒業証書授与式（人生は大地に育つ花のようである）

学校の桜の木も、いままさに皆さんの門出を祝うかのように、たくさんのつぼみを膨らませています。そして、街中の木々も早春の息吹を予感させています。

さて、先ほど卒業証書を手渡した3年生のみなさん、改めてご卒業おめでとうございます。

そして、皆さんは四月から新たな活躍の場で、新しい生活をスタートすることになります。私は、皆さんの、ここまでの道のりと努力に、心から敬意をはらうとともに、皆さんの人生の門出にあたり、一言お祝いを述べさせていただきます。

一つ目は、学校の学びと人間の尊厳についてです。

近年の社会の変革は、皆さんの生活にも影響しているAIなどの力による、スマート社会の到来だけではありません。EDIといわれる価値観の転換にも注目が集まっています。平等性・多様性・インクルーシブといわれる価値観です。

そのような大きなうねりの中で、皆さんより、一步先に巣立っていた日本の若者達の中には、各分野でたくさんの成果や結果を残している者もいます。

しかしながら、私たちの先人の言葉には、「不易と流行」を、しっかりと見極めろ、ということわざがあります。（「不易」とは、いくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないものの、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくものという意味です。）

たとえば、先ごろ白血病を公表したスイマーの池江璃花子選手には、ファンの枠を越えてたくさんの激励のメッセージが、爆発的に、SNS上で広がっているそうです。このことはネット社会の流行なのでしょうか、或いは、時代が変わっても変えてはいけないものなのでしょうか。

つきみ野中学校では、昨年、ゲスト道德の授業の中で、パラリンピアンをめざす盲目のスイマー富田選手から、メッセージとして、その答えを受け取っています。

私たちは、「頑張つて」と、紋切り型の激励だけに留まっていけない。池江選手自身が、病気を公表した、その行動に敬意を払い、単なる一過性のブームに、落とし込まぬようにする姿勢こそが、私たちの大切にすべきことだというのが、メッセージだったのではないでしょうか。

二つ目は、こころと思春期の振りです。

ある作家は、中学時代の学びを、人生の大地とたとえました。土は木の根っこを支え、養分を充分に与えてくれるものである。

しかし思春期は、やせた大地のようでもあり、友人との親密な関係のように、たくさんの木々の落ち葉や、生き物から養分を吸収し、また、一から土としての再生を繰り返し、やがて立派な木を育てていくことができる……。

大人の自分を創り上げることは、理想であり決して楽なことではないけれども、悩み、苦しみ、そして喜びを見つげながら成長している時ではないかと……

成長すると言うことは、そんなにすつきりと美しいことではない、ともいえます。つまり、自分の事が急に嫌いになってしまったり、大人の言うことが信用できなくなったり、そんな、経験を皆さんも、少なからずしたはずです。

そして、人は社会性や道徳性を手に入れて、花を育てる時代を迎え、花を咲かせる大人へと成長していきます。

卒業の日、ゆっくりと三年間を振り返ってみてください。

最後になります、皆さんへ私から贈る言葉があります。

正しい判断力の持ち主は、
太陽の持つ輝きはなくとも、
星のように不動である。

フェルナン・カバリエーロ

スペインの女性作家の言葉です。

結びになりますが、ご多用中の中、この卒業式のためにご臨席を賜りましたご来賓の皆様、心より御礼申し上げます。本日、立派に巣立っていく卒業生たちを、今後も地域の中で、見守っていただきますようお願い申し上げます。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。時の経つのは早いものですが、

しかし、子ども達は、その時の流れよりも、もっと、速く変化し成長していきます。

高いところからではございますが、皆様のご健勝と、お子様の健やかな成長と、今後のご活躍を御祈念申し上げます、式辞といたします。

平成三十一年三月十一日 大和市立つきみ野中学校 校長 萩野谷 洋一